

苫東の雑木林からの発信
～折々の「雑木林だより」1から5 抄～

草 莉 健

《勤務先（旧苫東株）が経営破たんして札幌通勤が始まった年も、北大の学生や子供連れの若い家族らは、わたしがフィールドにしていた苫東の雑木林にやってくる。一方わたしは毎週、純粋に雑木林を保育やら散策や小屋泊りやらで、じっくり堪能していた。平木沼緑地の雑木林で6グループが育て方のうまさを競う育林コンペは、作業の拠点となるログハウス（雑木林ケアセンター）ができた平成9年に本格化した。わたしはずっと小屋と緑地の管理人をしていたこともあって、そのころの小屋ノートの活発な書き込みをホームページにアップしてきた。「苫東の雑木林からの発信」は、その中から往時を彷彿とさせるものを適宜ピックアップしたものである。－草莉 》 *個人名はローマ字表記にしました

~~~~~

平成10年9月26日（土）はれ

ふんだんにある薪（保育の産物）を利用する第4段はピザ窯でした。そして第5段はバームクーヘンへの挑戦となりました。ちなみに第1は薪炭、第2はほだ木、第3は小屋の燃料として。耳寄りなニュース。今日、小屋の周りはボリボリでびっしりです。これは本当の話。子供たちも結構やるもので、みんな、袋ひとつくらいずつは採った模様。演習林グループは、naniwa、kawashima、yositugu さんら。 草莉

11年1月3日（日）快晴

明けましておめでとうございます。天候はとても恵まれた正月でした。元旦は樽前山神社で初詣をすませ、その足で近くの糸井山神社へはしご。神道を信奉していると言うより、自然神とか土地の神々を大切にその方法がフィットするみたいで。たとえば、樽前山神社は、まさに山と川と原野の神だったと思うけど、これらはここでは最も近い自然だからわたしは当然拝むことになりすし、「山の神」も、森林の神様として手を合わせることになっています。

話はちょっと変わって、間伐したミズナラ、コナラで「観音えくぼ」を作ろうと思います。本当は黒い石のようですが、木の感触もいいものです。英国のチャーチル元首相が何か困ったとき、「ポケットの友だちと相談してみる」とポケットの中でこのへこみを指でなぞったというエピソードもある、そんな形のもの。いらいらしたりするとき、そっと撫でます。以前作ったものは、手垢が付いて貫禄がついたころ、どこかになくしてしまっただけです。木彫りをしていると円空になったような妙に落ち着いた時間が流れます。

ストーブに火をつけて、掃除して、たき付けのカラマツの枝を集めて帰ります。明日から、仕事！！ 草莉

11年1月17日 日曜日 はれ

■昨日の夜から来ました。(注；小屋泊) 今年初の苦東です。予想以上に雪が多くて、わたしのシティはたくさんお腹をひきずり、何とかたどり着きました。今回わたしは夜組ということで、特に作業はせずに雑木林に新年のご挨拶にきました。

ここに来るとほっとします。昨日の晩はワセダくんのもってきてくれたシカ肉を外で焼いて食べたり、福井講師による星座講義を聴いたり、みんなでリコーダーを吹いたりして楽しく過ごしました。森の包容力に感謝しながら今年もたくさん雑木林に関わっていきたいと思います。北大 kawasima

P S : 草苺さん、やかん置いていたら使えますか？うちに余っていたのでもってきました。

■16日は1日、作業をして、初めて小屋泊まりをしました。のんびり過ごせる時間は幸せです。なべもお酒もとてもおいしかった。乗用車で雪の林道を走ったのですが、ハンドルをとられて、こわおもしろかったです(注；新語?)。冬の白い森は、気持ちがすーっとします。北大 yoshitugu

11年3月13日 土曜日 くもり 外気温プラス2度

すっかりご無沙汰しました。休日のない状態が続き、この10日は北欧を訪れるチャンスにめぐまれ、約1カ月ぶりになりました。懸案の温度計を、外用を窓の外のガラスに、室内用を窓枠に取り付けました。作業から戻った2時前は、外気が2度C、室内は12度Cだったのを、10分あまりで40度に上げました。

(女性ばかりの) おこもり広場に10人。Inoueさん、oguraさん、turumiさん、sasakiさん……。わたしは入り口のあたりを重点的に手がけ、計3台のチェンソーによる本格的な除間伐になりました。しかし、一向にすいた感じになりませんねえ。isakaさんにチキン、oguraさん(喜茂別の林業指導事務所の所長さんです)に焼きホッキをごちそうになりました。

フィンランドの若い、平坦な林をみました。シラカバ(ペンデュラとプベッセンス)と欧州アカマツのシンプルさと細さ。ちょうど、ケアセンターの周りの木々に似た若さです。ベルリンのTier公園の樹木も大変若かった。これは、戦時中、街路樹とともに薪に使われたため。そういう非常時の備林でもあるわけです。

ともあれ、大木でなくてもいい線行ってる事例に「目からうろこ！」でした。inoueさん、ご苦労さん、ごゆっくり。草苺

7月24日(土)

●今日は雨の予報がなんとか持ちました。久しぶりの雑木林、林の中は緑できれいでした。これからアポイ岳に登りに行って来ます。北大 kurita

●本来なら定例の作業日のところ、愛護組合は休会。雑木帳をホームページづくりのために持ち帰っていたので1週間ぶりに返却。今日の夜、「雑木林だより3」にはりつけてサ

ーバーに送ります。

土鍋と鉄板プレートをこのログハウス用にと寄贈があったのでそれらも持参しました。  
kawashima さん、takahashi さん、mitihiro さん、naniwa さんらが演習林ゾーンで作業し、先ほどもわかれたところ。 草薙

●曇り空の雑木林も、晴天の日とは違った趣があってきれいなものです。平木沼の方まで足を伸ばしてみましたが、ハナショウブ？、トラノオ、シモツケなどが咲いていました。エゾセンニュウの音が心地よいなあと聞き入っていたところ、遠くからアオバトの声かな、と思って耳を澄ますと草薙さんのリコーダーでした。 takizawa

8月28日 (土)

●上には炭がたくさんありました。ガもいました。ケアセンターの中をそうじしました。

Tominaga-hanaka

●秋風が吹いたような気がしたのに今日も風のない蒸し暑さにカムバック。tominaga さんに、草木染めをやるグループがきますと連絡したのでさっそく来られたのに、小屋の前でなくさらに北2kmにある演習林のゾーンだったために帰られたみたい。わたしが着いたとき演習林グループは、ちょうど「ホオバ味噌」と「ホオバご飯」などにチャレンジ中。乾燥させた葉の方が、香りが強いということになりましたが、生の葉に包んで蒸したりしただけでも独特の香りが付きます。

オオアワダチソウで染めるために、女性は花を集め、男性は火をたくという分業でした。ログの周りは今、オオアワダチソウ、サワヒヨドリ、ヤブハギ、ハンゴンソウ、キンミズヒキ、エゾヤマハギなど。 草薙

●今日は草木染めと朴葉みそにチャレンジしました。いずれも初体験でした。今日も勉強の日々。次回への課題がいくつか…。でも楽しかった。結果は色づきがいまいちでした。

p s : 草薙さん、かご、ありがとうございました。北大 kurita

●本当に盛りだくさんの一日でした。活動のハバが広がってきて（作業をしてないだけという話もあるが…）とても楽しいです。草木染めは、ヨモギとセイタカアワダチソウ。草を煮た染料で染めたあとに、灰汁につけて色を固着するのですが、灰汁をつけた瞬間に色が変わり、感動でした。出来映えは写真で報告します。北大 yoshida

●演習林チーム音楽隊に「鼻笛」という新しい楽器が加わりました！今度リコーダーやハーモニカとともに合奏したいです。帰りの車の中はホーミーも練習しなくちゃ。

kawashima

●森の中での遊びの方がここ数ヶ月でじゅく（熟？）されてきました。今日は草木染めです。来月はとうとうケアハウス2を建てます。楽しみです。osamu

8月22日 (日) 12:05

一ヶ月ぶりの小屋になりました。7月以降は花関係も自分の庭とクラブ関係（Green Thumb Club）とで忙しく、それに出張が続いたりといくつかの事情が重なった結果です。何分の1かは、あまりの暑さも原因しておっくうになったかも。少なくとも、なにか

イベントようなものは発想できませんでした。

で、久々にきた小屋は、例の蛾の死体が累々と積もっていました。蛾の手足がじゅうたんに絡んでしまっているのです。鱗粉のついた死体をひとつずつ拾うのです。カラマツ丸太にひそんでいた蛾なのか、隙間からはいつてくるものなのか。(ちなみに蛾の胴体アブドメンはヘビが食していたことが、のちに判明)

厚沢部の waseda 君が炭焼きをやるというメールが届いていました。函館のそばだからずいぶん遠いところのようでもあり、でも250kmは案外近いものです。数年前まで、冬のアメマス fishing のため、瀬棚や島牧までの180km~240kmを日帰りもしていたことを思い出します。ちょっと今はざわっとしますが。炭焼きは、ほっといてもにぎやかになりそう。うまいければいいけど、うまいかなくともそれなりにいいか? 草苺

10月16日 土曜日

●今日は「おこもり広場」の作業日。11月13日のコンペ前に最後の仕上げをしようと集まったのは、道職員を中心に15名。ちょっとのつもりが結構たくさん切ってしまいました。クスン。片づくでしょうか? 昼食はピザ。焼き加減がむずかしい…。でもみんな、大満足でした。 hamada

●明日の筋肉痛が心配だ。 oosaka

11月14日 (日曜日)

●数人からこのコンペの話聞き、今回初めて苦東の林に足を踏み入れました。たくさんの方が、それぞれの感じ方で林に関わっている。そういった人たちの集まる場所があることに感心しました。山小屋の薪ストーブを囲んでの演奏会、楽しかったな。 Oyama shino

●コンペのため半年ぶりくらいで苦東の雑木林に来ました。久しぶりにいろんな人に会えて楽しかった。そのまま残って小屋泊まり。ろうそくの火、薪ストーブ、リコーダーの音色……。とっても懐かしい感覚でした。 waseda

●育林コンペ速報!!!

\*特選 「レディスネットワーク21」

\*準特選 「北大チーム」

審査にあたったのは 胆振東部林業指導事務所 泉所長  
北大苫小牧地方演習林南センター長 青井先生  
植苗病院精神科医 滝沢先生 でした。

これから、わたし(コーディネーター)は、学生さんとでテーブルおこしに励み、冊子をつくろうと思います(できるかなあ?) 草苺

11年10月30日(土曜日) くもり

●小屋の入り口のヨモギと笹を刈りました。ヨモギなど茎が木化する多くの雑草は、雪の少ない苫小牧の冬には雪面の上に不揃いにそそりたち、とてもわびしく見せるもの。

・(先日何者かによって割られたドアの)窓ガラスの修理は間に合いませんでした。残念。日溜まりの枝にカラ類がやってきました。

・昨夜は、昔林学を学んだ年男達との久々の邂逅。48歳、みんな元気でまあ、それぞれの林と自然に関わっておりました。多くを語らず、方向性が似ているという暗黙の合意がありそうで、そのような同志といった感覚が漂って悪くない時間。 草苺

●その後、落日の頃に訪れました。もう枯れ木立になっていますが直線的なシルエットの背景は赤紫の空で美しい限りです。林道はずいぶん枯れ葉が積もったもので、ガサゴソと音を立てながら散策しました。渡りの季節、白鳥の美しい連隊をよく目にします。夕映えに取りが赤く染まっていました。これからが間伐の季節ですね。

そうそう、草苺さんに森林療法士さんの記事ののっている雑誌を持ってきましたのでまたご覧下さい。実はこの上原巖さん（信大農学部の院生さん＝当時）に連絡をとり、森林療法の方法論の資料をどっさりもらいました。わたしの職場でも治療に森での作業を取り入れたいと思っていましたので。

Takizawa

《このころから、苫東や植苗病院の林を中心に、森林療法のフィールド整備が少しずつ進むことになった。Uehara さんを講師にした勉強会のほか、例えば樹林気功やナチュラルセラピーなどといった様々な方のフォーラムを毎年開催するようになった。植苗病院と隣接する雑木林の除間伐を開始して、そこにフットパスを創った。最終的には2, 3 kmに及び、患者さんは薬の代わりに自発的に担当医師から散策の許可をもらい出かけるようになったと聞く。小屋にはひきこもりや不登校など、心の病に悩む若者が takizawa 先生らの引率で定期的にやってくるようになっていた。》

11年12月5日（日曜日）はれ 午前10時

とうとうどかっと雪が降りました。25cmくらいあるでしょうか。こうまではっきり雪景色に変わると、気分は一新します。今回の雪は特にしんしんと振ったために枝にふんわりとにっただままでヤワラカイ冬の林に見えます。

先日 naniwa さんからメールがあって武蔵野の雑木林が放映されるとのことでしたので早速見ました。今朝も再放送がありました。所沢あたりの雑木林は植えて創ったもの、というのは初めて知りました。また案の定、平坦な若い林という点では苫東とかなり似ていました。あとは、里山的に人がいるか、農耕がそばで行われているか。

今日は、コンペで特選に選ばれたレディスが集まっています。10時前から猛然と雪道を進む車が何台も。

それから、ピザ窯にコウモリ（テングまたはコテング？）がいたという話は書きましたが、最近見た報告書では育林コンペのあたりにエゾモモンガ（タイリクモモンガの亜種）が確認されています。クマゲラの存在は驚きませんが、ヒグマがときおり通り、モモンガもいるということになると、奥深さがにじみ出てきます。 草苺

《補足：2019年頃に、北大チームから tomi-k&m さんに引き継がれたエリアでエゾモ

モンガを発見。ヒグマに始まり、エゾシカ、キツネ、タヌキ、アライグマ、ウサギ、ヘビ各種、オオタカやクマゲラ、上空はオジロワシやガンカモ類など、勇払原野の苦東は今や動物王国の様相だ。2022/01/04》

11月23日 午前11時 はれ

週の中日に休みがあるのはなんと幸せなことか。と思って静かな小屋に座っていると、北電送電線の鉄塔用の鉄材を積んだトレーラーが通って、その間の30秒ほどは小屋が揺れました。アンバランス！！早く工事が終わって欲しい。

いよいよ今日は、花を植えていた自宅庭の残り全部のコンテナを片づけました。すべてすっきりすると心は冬の準備完了！今日はストーブをたいて掃除していこう。 草苺

~~~~~

《平成10年頃の雑木林は、まだ、これからどんなふうに扱っていくのか、主体は誰がなるのか、など何も固まっていない段階で、小屋にしても持ち主不明のような状態だった。破たん前の苦東にあった「苦東地区森林愛護組合」が、苦東の緑地を山火事から守り、働く人が利活用する場として位置付けられており、わたしは退社後も組合のフォレスターとして世話をする、という決裁書を自分で書いて仕事を終えたことを背景に、ここでの山仕事を継続させてもらった。経営破たんのどさくさの中、入林と保育の手続きをしてコツコツと活動してきたのが実績となって、まずは平成22年のNPO苦東コモンズ設立まで継続されることとなった。それほど、土地の所有と森の管理体制というのが、排他的でない、ゆるい関係で推移できたのは、今思えばかなり幸運だったと言えそうだ。

ただ、こうして眺めてみると、雑木林が手ごろに管理され、利用もされ、流行り言葉で言えば、「地域に共有」されるためには、このような「ゆるさ」は不可欠であることがわかって来たが、ここには世界中のコモンズが抱えるような重たい課題が横たわっているようだ。

ちなみに、ゆるい雑木林は、女性と子供、家族といったものに特に親和性が高いように見てきた。家族で楽しめる小さなテーマパークとかプレイパークのようなものだ。排他独占的な土地利用とはとても似つかわしくない組み合わせというべきか。敢えて言えば、そこに横たわるトーンとして、「平和」「和み」「日常」などの言葉が浮かんでくる。

2022/01/04》